「新大分スタンダード」による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導案（略案）例

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| ①学年・組 | | ②職名・授業者氏名 | | ③教科 | ④ペアでの  話合い活動 | ⑤グループでの  話合い活動 |
| ５年１組 | | 教諭・日田　太郎 | | 算数 | 有 ・ 無 | 有 ・ 無 |
| ⑥単元名(題材名) | | 比べ方を考えよう | | | | |
| ⑦本時のねらい | | 速さを表す３つの単位時間について、日常生活で出会う事象を基にそれぞれの数量の捉えやすさを比較することによって、道のりと時間の数量関係によって捉えやすい単位時間を考えることができるようにする。 | | | | |
| ⑧本時の評価規準 | | 【思考・判断・表現】速さを求めるときに使う２量に着目し、捉えやすい単位時間を考えている。〔ノート〕 | | | | |
| ⑨  展開 | めあて | 速さの求め方を考えよう | | | | |
|  | 課　題 | 時速だけでなく、分速や秒速で求めることがあるのはなぜかな。 | | | |
| 手立て | 「Ｃ:努力を要する」状況の児童への手立て  ・時計で１分や１秒の量感をつかませ、グラウンドや廊下などの長さとの関係で速さを捉えさせる。 | | | |
| 「特別な支援等の配慮を要する」児童への手立て  ・集中の持続が難しい児童に対して、プリントの配布など、離席できる場面を児童の様子を見ながら用意する。 | | | |
| まとめ | 求めるものによっては、分速や秒速のほうがわかりやすいから。 | | | |
| 振り返り | 速さを求めるときは、どの単位時間を使うかを考えるといいな。 | | | | |
|  | | | | | | |